

フランスにおける歴史的記念物に指定された橋梁について

On bridges classified French architectural heritages

山下 真樹**、小林 一郎***

By Maki Yamashita and Ichiro Kobayashi

ABSTRACT

In France, 139 bridges and 30 Roman aqueducts are classified into architectural heritages (Monuments historiques) by the national governments, and more than 400 are classified by the regional governments. The purpose of this paper is to analyze the process of the classification and the present state of these historical bridges. The following three points have been clarified; 1) from the view point of the preservation, the role of law is very important, 2) The activities for the preservation by the regional governments are more important than those of the national governments, 3) Not only to citizens, but also to young bridge engineers, the classification of modern historical bridges such as Freyssinet's Esbly bridge or Eiffel's Garabit viaduct promotes the idea of preservation and the respect of engineers.

1. はじめに

ガール橋を始めとする古代ローマの水道橋、ヴェラントレ橋等の中世の石橋、ペロネによって完成する一連の近代石造橋、19世紀初めのワイヤーケーブルによる吊橋、エッフェル等による鉄の橋、RC、PC橋の開発などフランスは常に橋梁史上で中心的役割を果たしてきた。そのため国内には多くの歴史的橋梁が存在している。

一方フランス革命以降の政治的、社会的混乱による文化財の破壊への反省として歴史的記念物(Monuments Historiques:以下MHと略記する)の指定による建築物等の保存が1840年から始まった。

本論文はフランス文化省の資料を基に、MHに指定さ

れた橋梁全139橋、水道橋30橋及び19世紀、20世紀の近代橋のリストを作成すると共に近代橋梁の幾つかのMHへの指定の経過と保存の現況を調査し、我が国の橋梁の保存に関して2、3の提案を行うものである。

なお、フランスの省庁は改変が激しく名前が一定しないが、主たる担当分野はそのまま保持されているので文化省、建設省と書いた。さらに市町村に当たるものがなくすべて、コミューン(commune)と呼ばれているので、ここではそれを用いた。

2. 歴史的記念物について

(1) 歴史的記念物の区分

MHには2種類の区別がある。一つは我が国の重要文化財に当たる国指定のMH(Le classement parmi les monuments historiques:以下CLと略記)で、もう一つは、地方指定のMH(L'inscription sur un inventaire supplémentaire:以下INと略記)である。INはCLの目録の追加目録への登録を意味している¹⁾。

* keywords : 橋梁、文化財、フランス

** 学生会員 熊本大学工学部土木環境工学科

*** 正員 工博 熊本大学助教授工学部土木環境工学科
(〒860 熊本市黒髪2丁目39-1)

両者の定義の違いは、CLが「歴史的、芸術的、科学的或いは技術的観点から公共の利益となるようなものはMHに分類される。」となっているのに対して、INは「歴史的或いは芸術的な面から保存に値するものは、いつでも追加目録へ登録される。」とあるのみである。また、CLに指定されると①取り壊し、移設、改築、改修、補修等を行う場合に文化省の事前の合意が必要となる、②都市計画、区画整理等による破壊は認められない、③文化省との協議なしには建物の取用も行ってはならない等の制約が生じる。INではそれらがみな文化省への事前の通知のみでよいことになっている。CLは文化省内の上級委員会によって選定されるのに対して、INはCOREPHE（歴史的、考古学的、民俗学的遺産に関する地方委員会）と呼ばれる地方ごとに組織される委員会によって選定作業が行われている。なお、記念物の改修工事に際してCLで40%、INで10%程度の予算が文化省より補助される。

文献2)によれば、1982年現在でCL12362件、IN21055件で、1962年と比較して、CLが21%増、INが43%増となっている。CLの内37%は①大聖堂、教会であり、②城、貴族・領主の館、③ラスコーの洞窟等の歴史時代以前の遺跡、④個人の建物（著名な芸術家、科学者等の生家を含む）の3項目はそれぞれ約11%となっている。橋梁等の土木構造物は⑤その他に分類され、全体の9%を占めているに過ぎない。なお、フランス文化省のMHの正式英訳はFrench Architectural Heritageである。これはヨーロッパ各国との対応上のことで、例えばこれを「フランス建築遺産」と訳してしまうとMHとはニュ

アンスの異なるものになる。MHはあくまで歴史的なモニュメントであり、主として建築がそれに当たるが、その他の項には土木構造物、公園、水道、十字架、キリスト磔刑の像、パイプオルガンなども含まれる。

(2) 歴史的記念物としての土木構造物

表-1に土木構造物に分類される項目名を示した。橋(Pont)の中には陸橋(Viaduc)と吊橋(Pont suspendu)が含まれる。陸橋は主として鉄道用の高架橋である。

また、ダム、突堤等の土木構造物と並んで、いわゆる電信機、腕木式信号機、変電所などフランスにおける産業革命期以降の産業遺産もこの中に含まれる。また、吊橋が特に他の橋梁と区別されるのは、まず第一に、フランスでは橋とは基本的に石造アーチ橋であるということ、第二に、フランス橋梁史における吊橋の位置が極めて独特であるという理由からである³⁾。フランスの吊橋は大半が19世紀のものであり、1967年完成のボルドーのアキテーヌ橋を最後として、現在は建設が行われていないが、200を越える吊橋が現存している。1920年代にマルク・スガン(Marc Seguin)による世界初のワイヤーケーブル使用の本格吊橋が建設され、それ以降ローヌ、ロワール両河と南西の山岳地帯に有料橋として多くの吊橋が架けられた。もともとワイヤーケーブルの防錆に問題があり、落橋、廃橋も多いが現存する吊橋の保存は極めて重要でしかも困難な問題である。また、架け換えにより廃橋となる例も多くMHとしての登録が急がれる。いずれにしても、吊橋は橋（石橋）の定義から最も遠い橋であり、保存に当たっ

表-1 MHの土木構造物の分類項目

項目（仏語）	項目（日本語）	項目（仏語）	項目（日本語）	項目（仏語）	項目（日本語）
Pont	橋	Montjoie	石塚	Cale	船倉
Viaduc	高架橋	Aiquillage	転轍機	Réservoir	タンク、貯水池
Pont suspendu	吊り橋	Bac	渡船場	Citerne	貯水槽
Pont Aqueduc	水道橋	Embarcadère	棧橋	Chateau d'eau	給水塔
Pont canal	運河橋	Écluse	閘門、水門	Regard	マンホール
Passerelle	歩道橋	Vanne	堰板	Télégraphe	電信機
Tunnel	トンネル	Digue	防波堤	Sémaphore	腕木式信号機
Gué	浅瀬	Barrage	ダム	Émetteur Radio	放送局
Borne	境界石	Quai	川岸、波止場	Transformateur	変電所
Milliaire	マイルストーン	Bassin	泉、入り江		

ても石橋が供用を続けながら保存されるのが原則であるのに対して、保存法、利用策についても全く別のジャンルの記念物として捉えられている。ただし、大きな分類上は橋に入る。

これに対して、主にローマ時代の水道(Aqueduc)は別の項目となっているが、この中には水道橋(Pont aqueduc)、サイフォン橋(Pont siphon)、トンネル、送受水用貯水施設まで含まれる。また、運河橋(Pont canal)を橋に分類するか、閘門と共に運河施設に分類するかは個々の記念物について異なる。

(3) 橋梁の指定件数

このため、フランスのMHに指定された「橋」がいくつあるかは、人によって数十橋のオーダーで異なる。また、MH以外にもいくつかの保存のための制度、例えば、歴史的地域(Site historique)、建築的、都市的遺産保護区域(ZAPPAU)等があり、これもMHの中に加える場合もある⁴⁾。さらに、橋の数の特定を複雑にしているのは登録されたMHの資料の分類が表-1のような記念物の種類の項目ごとに分かれているのではなく、約3万5千あるコミューン別に分類されているという点にある。これは、制度上まず地方ごとにINに登録されることと、本来、主として建築物を対象としているためであるが、橋梁の場合には大半が二つのコミューンに跨っているため重複登録される場合が少なくない。つまり、行政区分に従ってMHの数を数えると二度カウントされることになる。或いは一つのコミューンに三つの水道橋がある場合に複数形で橋(Ponts)とある時には、これを一件とすることもある。また、すでに吊橋はなくその塔だけがMHとして残っているもの⁵⁾や、橋の上の付属物(高欄に取り付けられた麦の量を計る升)がMHで橋自体はINと言うこともある。本論文ではそれらも全て橋梁の中に含めた。

フランスでは、MHにおける原則は「Sauvetage-Transmission(救済と引継)」であり、より多くを保存し、次世代に引き渡していくことが最良の対処法であると考えられている。次の世代の方が賢明であることを信じ、結論を急がずにじっくりと物事を処理する。

3. MHに指定された橋及び水道橋

(1) CLに指定された橋梁

表-2は1994年2月現在、MHに指定された橋梁(陸橋、吊橋、運河橋を含む)の全リストである。ここでは、例えば表中の一橋を示す時表-2.30のように表番号の後に橋梁の番号をつけて表すこととする。従って、ナポレオン橋(Pont Napoleon)は表-2.30となる。前述のように、フランス文化省のデータから直接引き出そうとしても本リストは容易に得ることが出来ないため著者等が独自に作成した。表-2において吊橋はマルク・スガンの実験橋が2橋(表-2.12, 13)とマルトルーの運搬橋(表-2.31)とトネイ＝シャラント橋(表-2.32)の合計4橋、鋼橋はミラボー橋(表-2.112)、アレクサンドルⅢ世橋(表-2.111)の2橋、木橋は19世紀に出来たクレティヤン＝シャベネ(表-2.61)の1橋のみで残りの132橋は全て石造橋である。なお、表中の県番号は図-1に示したとおりである⁶⁾。ここで墨入れしてある県は5橋以上のCLがある県で、パリを除くと全て中央山塊の周辺部とフランス・アルプス及びその周辺部であることがわかる。

図-2に最初に橋梁のMHへの指定が行われた1840年から20年ごとの橋梁のCLへの指定件数の推移を示した。



図-1 フランスの県番号(文献6より引用)

(墨入れした県はCLに指定された橋梁が5橋以上ある県)

表-2 CLに指定された橋梁 (その2)

No	橋名	県	コムーネ	河川名	指定年月日	備考
41	Pont anciens	21	Montigny-sur-Aube	L'Aube	1962 12 1	
42	Pont aqueduc des Arreaux	21	Noron-Sonlevrey	La Vande	1991 3 14	
43	Pont(vieux)	22	Dinant	La Rance	1903 2 10	
44	Pont gaulois	22	Reffin	L'Hyères	1961 6 22	
45	Pont	23	Prouverel	La Voueize	1953 3 21	
46	Pont romain	23	Chalon-sur-Voueize	La Crouse	1920 6 13	
47	Pont de la Tour	21	Moutier-d'Aun	La rivière	1981 11 16	
48	Pont(ancien)	87	Le Châtel	L'Isle		
49	Pont	24	Saint-Vrieux-la-Perche	La Vézère	1901 6 25	
50	Pont d'Ambusard	26	Terrasson-la-Villedieu	L'Eygues	1925 10 8	
51	Pont des Cuisinards	30	Nyons	L'Eygues	1810	
52	Pont Charles-Martel	30	Gallargues-le-Montueux	Le Vidourle	1874 2 4	
53	Pont du Gard	30	Malet	Le Gardon	1909 10 23	
54	Pont de la Basse	30	La Roque-sur-Cèze	Le Cèze	1810	
55	Pont de la Forge	30	Vers Pont du Gard	Le Gard	1938 3 15	
56	Pont de la Forge	31	Arre	Arre	1991 3 14	
57	Pont de la Forge	31	Toulouse	La Garonne	1911 2 19	
58	Pont de la Forge	31	Boziers	L'Orb	1963 6 18	
59	Pont de la Forge	31	Brissac	L'Orb	1948 11 4	
60	Pont de la Forge	31	Marques	Le Jaur	1916 8 23	
61	Pont de la Forge	31	Saint-Thibery	L'Hérault	1862	
62	Pont de la Forge	36	Saint-Christien-Chabonet	La Bouzanne	1972 7 30	
63	Pont de la Forge	38	Le Pont de Claix	Le Brac	1918 5 27	
64	Pont de la Forge	38	Saint-Pierre-de-Chartreuse	Le Guers-Mont	1927 10 28	
65	Pont de la Forge	38	Saint-Pierre-de-Chartreuse	Le Guers-Mont	1923 5 1	
66	Pont de la Forge	38	Saint-Pierre-de-Chartreuse	Le Guers-Mont	1923 5 1	
67	Pont de la Forge	38	Saint-Pierre-de-Chartreuse	Le Guers-Mont	1923 5 1	
68	Pont de la Forge	38	Saint-Pierre-de-Chartreuse	Le Guers-Mont	1923 5 1	
69	Pont de la Forge	38	Saint-Pierre-de-Chartreuse	Le Guers-Mont	1923 5 1	
70	Pont de la Forge	42	Genilac	La Gère	1921 3 6	
71	Pont de la Forge	42	Genilac	La Gère	1962 4 2	
72	Pont de la Forge	42	Genilac	La Gère	1911 1 1	
73	Pont de la Forge	42	Genilac	La Gère	1932 3 16	
74	Pont de la Forge	43	Bevins-Charneau	La Loire	1911 2 21	
75	Pont de la Forge	43	Bevins-Charneau	La Loire	1982 11 23	
76	Pont de la Forge	43	Bevins-Charneau	La Loire	1913 12 21	
77	Pont de la Forge	44	Clisson	Le Maine	1922 3 18	
78	Pont de la Forge	46	Calors	La Serres	1922 3 20	
79	Pont de la Forge	47	Anges	Le Lot	1400	
80	Pont de la Forge	47	Anges	Le Lot	1992 1 30	
81	Pont de la Forge	47	Anges	Le Lot	1969 11 30	
82	Pont de la Forge	47	Anges	Le Lot	1984 11 11	
83	Pont de la Forge	48	Anges	Le Lot	1887	
84	Pont de la Forge	48	Anges	Le Lot	1911 8 27	
85	Pont de la Forge	49	Anges	Le Lot	1918 9 7	

表-2 CLに指定された橋梁 (その1)

No	橋名	県	コムーネ	河川名	指定年月日	備考
1	Pont Saint-Laurent	01	Saint-Laurent-sur-Saône	La Saône	1987 7 6	
2	Pont romain	71	Manc	Le ravin de l'Écluse	1862	
3	Pont ancien	04	Cereste	Le ravin de Buis	1963 10 1	
4	Pont des Trois Arches	04	Gangobrie	La Lave	1970 1 28	
5	Pont de Geydan	04	Lurs	Le Colap	1944 2 28	
6	Pont d'André	04	Saint-Benoit	Le Verdon	1977 3 25	
7	Pont d'Asfeld	05	Thorez-Haute	La Bourne	1988 12 5	
8	Pont de la Tour	05	Charbonnet-de-Clabre	La Mouge	1981 12 18	
9	Vieux pont et tour	06	Sospel	Le Bevara	1924 7 8	
10	Pont du Gué	07	Beaumont	Le Bouage	1981 12 5	
11	Pont d'Ouveze	07	Soubise	L'Ouveze	1923 3 9	
12	Pont suspendu	07	Saint-Fortunat-sur-Eyrieux	L'Eyrieux	1982 5 7	
13	Pont suspendu	07	Verdoux-les-Annaux	La Cance	1981 4 6	
14	Pont romain (franchissant)	07	Quintenas	L'Escalot	1986 8 13	
15	Pont romain	10	Soy	Le Landon	1973 8 8	
16	Pont romain	11	Alex-les-Bains	L'Aude	1912 11 23	
17	Pont romain	11	Alex-les-Bains	L'Aude	1926 3 16	
18	Pont romain	11	Lagrasse	L'Orbieu	1907 9 18	
19	Pont romain	11	Trèbes	L'Orbieu	1950 3 21	
20	Pont romain	12	Entraigues-sur-Troyère	La Troyère	1927 9 16	
21	Pont romain	12	Entraigues-sur-Troyère	La Troyère	1888 3 9	
22	Pont romain	12	Millau	Le Lot	1931 1 23	
23	Pont romain	12	Najac	Le Tarn	1987 2 10	
24	Pont romain	12	Saint-Affrique	L'Aveyron	1886 7 12	
25	Pont romain	13	Aix-en-Provence	La Sorgue	1914 6 16	
26	Pont romain	13	Arles	Le Rhône	1920 12 1	
27	Pont romain	13	Arles	Le Rhône	1988 11 11	
28	Pont romain	13	Arles	Le Rhône	1810	
29	Pont romain	16	Saint-Omer	La Touloubre	1903 4 11	
30	Pont romain	17	Château d'Oleron	Chenal de la Brède	1979 1 15	
31	Pont romain	17	Rochefort	La Charente	1976 4 30	
32	Pont romain	17	Tonnay-Charente	La Charente	1988 11 11	
33	Pont romain	19	Allasac	La Vézère	1969 12 26	
34	Pont romain	19	Vergozac	La Vézère	1969 10 11	
35	Pont romain	24	Zigllara	Le Taravo	1976 11 10	
36	Pont romain	24	Peretto-Ricchiano	Le Rizzanese	1976 10 22	
37	Pont romain	24	Arbellara	Le Porto	1976 11 29	
38	Pont romain	24	Oca	Le Porto	1990 6 26	
39	Pont romain	24	Exisa	L'Esca	1977 2 15	
40	Pont romain	28	Altiani	Le Tavignano	1977 1 14	

表一 2 CLに指定された橋梁 (その3)

No	橋名	県	コミュニティ	河川名	指定年月日	備考
81	Pont gallo-romain	52	Ostreucourt	Le Moizon	1932 3. 9	
82	Pont	52	Somercourt			
85	Pont	54	Crevin	Le Saron	1984 2. 28	
86	Pont	55	Rupt-Aux-Nonains	La Saulx	1975 9. 9	
87	Pont ecluse Saint-Meand	55	Verdun	La Meuse	1978 12. 13	
88	Pont bach	57	Dolvin	Le Landbach	1978 12. 28	
89	Pont des Therres	57	Wetz		1977 7. 9	
90	Pont ecluse Sud du	57	Thionville	Quai des Fortifications	1984 12. 21	
91	Mesure publique	63	Billon	L'Angoul	1982 12. 16	
92	Pont	63	Le-Cherx	La Morge	1974 10. 1	
93	Vieux Pont	63	Gondes	La Couze du 145	1988 1. 27	
94	Vieux Pont	63	Monat	La Couze du 145	1988 5. 21	
95	Pont(ruines)	63	Olliergues	La Couze	1930 11. 7	
96	Pont du 155	63	Saurier	La Couze	1907 2. 7	
97	Vieux Pont	64	Orthez	Gave de Pau	1875	
98	Pont	64	Sauveterre-de-Bearn		1886 7. 12	
99	Pont aqueduc	66	Assignon	L'Agly	1974 4. 19	
100	Pont	66	Gret	Le Tech	1810	
101	Aqueduc des Arcades	66	Portignan		1984 7. 16	
102	Pont	67	Walschreben	L'Isch	1986 1. 20	
103	3 Arches du pont siphon	69	Chaparnot	Vallee	1912 3. 20	
104	Quai de depart du pont romain	69	Sainte Colombe	Le Rhone	1920 9. 13	
105	Pont de la Thaitie au hameau de Corcelles	71	Chateaux-le-Royal	La Thaitie	1931 4. 20	
106	Pont	71	Novilly	Le Donis	1916 12. 31	
107	Pont de l'Isere	73	Montiers		1980 11. 13	
108	Pont Neuf	75	Paris-Ier	Grand Bras	1889	
109	Pont Royal	75	Paris-Ier	Petit Bras	1939 5. 1	
110	Pont Marie	75	Paris-Ier	La Seine	1887 2. 10	
111	Pont Alexandre III	75	Paris-Ier	La Seine	1975 4. 29	
112	Pont Hicabou	75	Paris-Ier	La Seine	1975 4. 29	
113	Pont des Romains	77	Eury-Gugy-sur-Verres	L'Yverres	1932 2. 28	
114	Vieux pont de Liery	78	Liery	La Seine	1923 6. 15	
115	Pont du Vernay	78	Montes-la-folie		1988 2. 10	
116	Vieux Pont et poleme	79	Arvauit	Le Thouet	1938 9. 12	
117	Vieux pont	79	Thouars	Le Thouet	1938 9. 12	
118	Pont(vieux)	81	Albi	Le Tarn	1931 3. 16	
119	Pont(vieux)	81	Brassac	L'Agout	1990 1. 11	
120	Vieux pont	81	Graulhet	Le Pado	1937 7. 28	
121	Pont(ancien)	82	Montauban	Le Tarn	1911 12. 15	
122	Pont des Esclapes	83	Friejus		1939 3. 14	
123	Pont romain	83	Pouzeux		1913 3. 8	
124	Pont Julien	83	Saint-Maximin			
125	Pont romain	84	Bomieux	La Calaven	1914 4. 18	
126	Pont des Oilleres	84	Essen-la-Romaine	L'Queuze	1910 10. 18	
127	Pont de Senard	85	Mervent	La Vire	1984 5. 4	
128	Pont Henri IV	86	Saint-Blaire-de-Ladlay	La Maine		
129	Pont de Chateauponsac	86	Chateaufort	La Vienne	1913 11. 15	
		86	Saint Savin	La Garmppe	1896 8. 20	
		87	Chateauponsac	la Garmppe	1990 1. 25	

表一 2 CLに指定された橋梁 (その4)

No	橋名	県	コミュニティ	河川名	指定年月日	備考
130	Pont Saint Etienne	87	Limeoges	La Vienne	1907 10. 23	
131	Pont Saint-Martial	87	Limeoges	La Vienne	1908 7. 20	
132	Pont Saint-Elizabeth	87	Saint-Junien	La Glane	1990 7. 25	
133	Pont surmonte d'un Colombier	87	Veyrac	La Glane	1973 10. 12	
134	Vieux pont	88	Bollainville	La Fozelle	1984 12. 21	
135	Pont de pierre	88	Wineau	La R. 8. 6	1947 4. 22	
		88	Perrigny			
136	Pont de Perronet	89	Pierre-Perthuis	La Cure	1921 5. 9	
137	Pont des Belles-Fontaines	91	Buney	L'Yverres	1991 7. 1	
138	Pont	91	Juvisy-sur-Orge	L'Orge	1991 5. 9	
139	Pont	91	Meceville	La Juine	1979 7. 13	

表一 3 CLに指定された水道橋

No	橋名	県	コミュニティ	河川名	指定年月日	備考
1	Aqueduc romain	01	Brion		1901 8. 8	
2	Aqueduc romain	01	Vieu		1840	
3	Aqueduc gallo-romain	13	Aix en Provence		1963 1. 3	
4	Aqueduc de Barbagal	13	Arles		1886 7. 12	
5	Aqueduc du Pont de Crau	13	Arles	Marais du Pont de Crau	1922 11. 7	
6	Aqueduc romain	13	Meyrargues		1922 11. 7	
7	Aqueduc(restes d'un)	16	Bonzie		1889	
8	Aqueduc	17	Poulet		1810	
9	Aqueduc gallo-romain	17	Fontcouverte		1990 8. 8	
10	Aqueduc de Pontgouin a Versailles	28	Maintenon		1931 3. 19	
11	Aqueduc romain	28	Pontpouin		1862	
12	Aqueduc gallo-romain	29	Corbais-Plougues		1979 5. 17	
13	Aqueduc alimentant le chateau	30	Ronodins		1919 9. 8	
14	Aqueduc gallo-romain	34	Castries			
15	Aqueduc gallo-romain	37	Abbe-sur-Cher	Vallee	1966 2. 7	
16	Aqueduc romain	37	Loynes		1862	
17	Aqueduc romain du Gier	38	Vienn	Vallee	1946 4. 19	
18	Aqueduc et ses abords	42	Chapon	Vallee	1962 4. 2	
19	Aqueduc romain	50	Contances	La montagne du Chatelet	1939 8. 10	
20	Aqueduc gallo-romain	52	Fontaines-sur-Marne		1883 12. 26	
21	Aqueduc de la Recenne	57	Ars-sur-Moselle	R. N. 37	1990 8. 8	
22	Aqueduc romain du Gier	57	Jouy-Arches		1810	
23	Aqueduc romain du Gier	69	Ecilly		1986 8. 11	
24	Aqueduc romain du Gier	69	Sainte-Foy-Les-Lyon		1939 2. 18	
25	Aqueduc(ancien)	69	Sorciens en Jarricot	Vallee de la Boivre	1986 8. 11	
26	Aqueduc antique	78	Buc		1932 9. 22	
27	Aqueduc antique	78	Loussac		1951 3. 30	
28	Aqueduc	83	Frejus	Biveraux vallee	1886 7. 12	
29	Aqueduc des Eaux de Bungs	84	Carpentras	C. R. 13. L'Auzan	1917 12. 17	
30	Aqueduc gallo-romain	91	Aronel		1991 2. 26	
		91	Caden		1862	

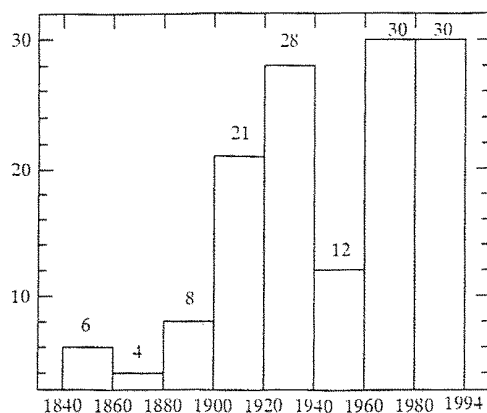


図-2 橋梁のMHへの指定数の推移
(著者作成)

これによると、1994年現在、139橋中約9割にあたる121橋が20世紀に入ってからの指定であることがわかる。まず、1840年にガール(表-2.53)、フラヴィアン(表-2.28)、アルブスム(表-2.50)、ヴェゾン＝ラ＝ロメヌ(表-2.124)の古代ローマの橋とセレ(表-2.100)、ヴァラントレ(表-2.77)の中世の橋の計6橋が初めてCLに指定されている。この6橋の例も含め19世紀の時点では、歴史的価値の高い橋梁のみの保存が目的であった。この図より①1900年代、②1920年代、③1960年代の3回、大きな指定件数の増加が見られる。これは、MHの保存に関する思想の成熟化とそれに伴う法的整備が行われたことと対応している。①1913年の法律、②1930年の法律、③1960年代のマルロー法といった一連の流れがそれである。

まず1913年に制定された「歴史的記念物の保存に関する法律」によって、これまでの橋梁を含めた歴史的価値の高い「構造物」のみの保存からその「構造物」を中心とした周囲の調和や眺めの保存といった概念が形成された。次の1930年に制定された法律はまとまった地域全体の歴史的景観の保存を最大の目的としている。歴史的景観の一部としての橋梁を保存することによってこの頃の指定件数の伸びに大きく関係していると思われる。更に1960年代頃からの一連のアメニティ都市づくり等の運動による都市そのものの保全と活用という保存に関する意識の変化があった。この頃になるとミラボー橋、アレクサンドルⅢ世橋といった近代橋梁も指定を受けている。

フランスでは法的措置も含めた社会の精神的成熟により「遺物」の保存から「景観」の継承、さらには「都市環境」の保全へと都市におけるMHの位置づけが変化し、蓄積的に環境を形成していくという基本姿勢が窺える。

(2) CLに指定された水道橋

表-3は1994年2月現在水道(橋)として分類されたMHの全リストである。ただし、前述のように水道橋を橋の分類に入れるか、水道の一部とするかは必ずしも一定のルールがあるわけではない。例えば、リヨンのローマ時代の4本の水道^{77)・8)}のうち、ローヌ(Rhône)県内でMHに指定されたものは6件あり、2件は橋(表-2.103, 104)、4件は水道(表-3.21~24)に分類されている。また、モン・ピラ(Mont Pilat)の水道のうちサイフォン橋(橋長269m、高さ17m、幅7.25m、30連アーチのうち中央部1/3が消失)は水道(表-3.22, 23)に分類され、92連中75連が現存するアーチ橋部と、サイフォン橋(表-2.103)への送水槽とそれに繋がる3連のアーチは一括して橋と分類される。これは、所有者が前者はコミューン、後者は個人であるということにも起因する。これに対して、サント・コロンブの水道橋(表-2.104)の一部は規模的には極めて小さいが、市内の人目に付くところにあるためか、国の所有として1920年にすでに橋として登録されている。

(3) 国の視点と地方の視点

橋梁に限ることではないが、文化財の保存を考える時、①国レベルの視点からのモニュメントの保存と、②地方レベルの視点からの地域環境の保存という二つの流れがある。フランスでは、それぞれ①をCL、②をINが担っていると思って良い。①では国の統一的基準に従って、国の宝となるべき文化財を定めることになる。ただし、これだけではその地方独自のもの、或いは現在の基準では国指定のレベルに達しないけれども、将来的には十分国の指定を受けうるものを早めに指定しておくことが難しい。また、登録申請者が国かそうでないか、また、彼らがそのモニュメントを何に分類するか等によってCL、INの規模や内容は全く異なったものになり、統一的な基準はないに等しい。このため前述のように、例えば、橋か水道かの区分を明確にすることもないし、第6章で後述するように、同じ指定

でも所有者（国やコンミュンも含む）によって保存の状態に差が生じてくることになる。

このような定義の混乱やデータとしての分類の不徹底は①、②という異なる価値基準があり、極力多くを残すという方針がもたらす当然の帰結である。フランスでは、ジャック・デュアメル文化相の「1000年間で50のモニュメントを救うよりも50年間で1000のモニュメントを救う方が善い。」という言葉に代表されるように極力多くのMHを保存することが目標とされている。

これに対して、我が国の現状は国レベルでの重要文化財の指定という、厳密で徹底した分類のため24の橋梁だけしか国のモニュメントとしていない。結果的に、フランスなら当然これに値すると思われる地方の著名橋に対して「救済と引継」の工作在欠けることになっている。筆者らは、土木構造物の活用、保存を考える時、②の流れを国の制度の中で確立していかなければならないと考える。つまり、強力な中央政府を持つ国では、予算的措置を含めて地方の独自性を認める制度を整えなければ、結果として地方独自のMHは残らないであろう。

4. 19世紀以降にINに指定された橋梁

今回の調査では、全てのINとなった橋梁の数を確定することができなかったが、約400程度であろうと思われる。このうち、19世紀以降の全てのINに登録された橋は表-4、5の通りである。この中には、我々にも馴染み深いフランス近代橋梁史を飾る橋梁がほぼ網羅されている。なお、表-4、5には19、20世紀に大きな補修工事が行われたものもこの中に含まれる。例えば、サン＝ローラン橋(表-4.1)は11～12世紀に架けられたものであると考えられているが19世紀にも手が加えられたためリストに挙げられている。また、備考欄のAは鉄（铸铁、錬鉄、鋼も含む）の橋、Bはコンクリート橋、Mは石造橋、Sは吊橋を表す。空欄は高架の鉄道橋及び道路橋であると思われるが現時点では確認できなかった。

指定年を見ると1980年以降のものが多く、表-4で51橋中31橋、表-5で16橋中11橋となっている。これは80年代以降明確になってきた歴史的景観の保存修復或いは歴史的なものの現代への再活用といった気運が一般市民のレベルで共通認識となったことと軌を一にしている。

石造アーチにおいても、従来CLとは認められなかったものに新しい調査⁹⁾が行われCLとなる例も出てきている。上述のサン＝ローラン橋は第二次大戦後も中央部のアーチの爆破の補修が行われ、アーチ内輪では石よりもコンクリートの方が多い所もあった。このためINであることにも論議があった程である。河川改修と1980年の船の橋脚への衝突事故のため廃橋の話題も出ていたが、現状のままの保存を望む市民の声が多く市長選も保存派でないと選挙にならない状態であったという。これらの運動の結果1987年にCLとなっている。中世には橋の補修費を捻出するために免罪符が売られていたが、本橋の補修工事はフランスでのその最後の事例として有名であり、こうした歴史性が認められたものである。ちなみに、船舶の交通確保のため、市内を迂回する5kmの運河が造られた。

ただし、これはフランスでも特殊な例であり、交通の要衝にある橋梁で、将来拡幅や防音壁の設置などで何らかの工事が行われる可能性がある場合には、行政側があえてINの登録を行っていない例もある。Vicatの設計・施工になるスイヤック(Souillac)のドルドーニュ河(Dordogne)橋¹⁰⁾はその基礎工事にフランスで初めて水硬性セメントを用いたものとして有名であるがこれはINにも登録されていない。

5. 橋梁のMHへの指定の基準

(1) MHへの指定

MHへの登録の要求ができるのは、①所有者、②地方自治体、地方の各種協会、③県、地方の長、④中央、地方の文化関係の省庁である。また、具体的に橋梁におけるCLまたはINの指定に関する統一した基準は存在しないようで、概ね、これまでの事例に従うようである。ここでは、INへの登録とINからCLへの指定の例としてトネイ＝シャラントの吊橋とパリの橋の例を示す。

(2) トネイ＝シャラントの吊橋の場合¹¹⁾

写真-1は下流の港よりの本橋の現況である。

図-3のスケッチは本橋の一般図であるがMHの審査時に添付された図面は大体このようなものが多い。正式に政令で決定した時点では写真、一般図、地図等が付属資料となっている。

図-3にあるように本橋は1842年に完成し、左岸側に407mに及ぶアプローチの高架橋を持つ3径間連続の

表 4 CLおよびINに指定された19世紀の橋梁 (その1)

No	橋名	県	コミュニティ	河川名	指定年月日	備考
1	Pont Saint Laurent	01	Saint-Laurent-sur-Saône	La Saône	1937. 7. 6	CL M
2	Viaduc de Rouzat	71	Nacou	La Soule	1965. 12. 8	IN A
3	Viaduc de Neuville	03	Begues	La Soule	1965. 12. 8	IN A
4	Pont	03	Mazetier	La Vaire	1981. 2. 19	IN M
5	Pont franchissant le Marais	04	Le Fugeret	Le Marais	1989. 7. 4	IN M
6	Pont de Rocheaure	05	La Grave	Le Rhône	1985. 12. 17	IN S
7	Pont suspendu	07	Saint-Fort-l'Écluse	L'Eyreux	1982. 5. 7	CL S
8	Passerelle Seguin	07	Tournon-sur-Rhône	Le Rhône	1935. 12. 30	IN S
9	Pont suspendu (Pont du Moulin)	26	Tain-l'Hermitage	La Cance	1981. 4. 6	CL S
10	Pont canal enjambant la Seine	07	Vernac Les-Ancis	La Seine	1984. 12. 6	IN A
11	Viaduc du Viar	12	Tortiac-de-Macelle	Le Viar	1984. 12. 28	IN A
12	Pont suspendu	13	Arles	Le Rhône	1933. 7. 6	IN S
13	Pont Van-Geigh et maison pontière	13	Arles	Le Rhône	1983. 11. 14	CL M
14	Pont suspendu de Mirabeau	13	Jougues	La Durance	1933. 7. 6	IN S
15	Viaduc	13	Saint-Chamas	La Trupère	1984. 12. 28	IN M
16	Viaduc de Garabit	15	Loubarosse	La Trupère	1935. 9. 11	IN A
17	Pont suspendu et anciens pavillons à peage	15	Begues-en-Vivarade	La Charente	1933. 11. 14	CL S
18	Viaduc (Pont Eiffel)	28	Vivario	Le Vecchio	1976. 7. 29	IN A
19	Viaduc de Fin	21	Fleury-sur-Orche	La Creuse	1981. 12. 28	IN A
20	Viaduc de Bussieu	23	Abut	La Creuse	1975. 1. 15	IN A
21	Viaduc sur la Tard	23	Ponnat	La Tard	1975. 1. 15	IN A
22	Pont du Robinot	26	Eaux-les-Bains	Le Rhône	1985. 12. 23	IN S
23	Viaduc	29	Bouère	Le Rhône	1975. 10. 29	IN M
24	Viaduc	30	Chambard	Le Rhône	1984. 12. 23	IN M
25	Ponts Jureaux	31	Toulous	Le Rhône	1967. 11. 21	IN M
26	Pont	34	Génac	L'Hervault	1950. 12. 29	IN M
27	Pont couvert en bois	36	Pont Chretien Chabouet	La Bouzanne	1992. 7. 20	CL M
28	Pont de pierre	42	Charleu	Le Serein	1933. 8. 8	IN M
29	Pont de Confort	43	Bouac	Le Serein	1950. 9. 10	IN S
30	Pont canal	43	Saint-Murice-de-Lignon	La Loire	1976. 5. 12	IN A
31	Viaduc de la Borrière	45	Bruc	La Loire	1976. 5. 12	IN A
32	Viaduc de Chapeaux	46	Saint-Firmin-sur-Loire	La Loire	1984. 12. 23	IN M
33	Pont enjambant la Marne	48	Saillat	La Marne	1984. 12. 23	IN M
34	Pont suspendu	52	Saint-Rome-de-Montauroux	L'Allier	1931. 12. 6	IN S

表 4 CLおよびINに指定された19世紀の橋梁 (その2)

No	橋名	県	コミュニティ	河川名	指定年月日	備考
35	Viaduc de Lanespede	65	Begole	La Seine	1984. 12. 28	IN
36	Pont ecclésiastique Saint-Thomas	65	Lanespede	L'Ille	1988. 12. 20	IN A
37	Pont ecclésiastique	67	Strasbourg	La Lanterne	1982. 10. 20	IN A
38	Viaduc	70	Bourguignon	La Lanterne	1981. 12. 28	IN M
39	Vieux Pont	71	Mussy-Saint-Bas	La Vierge	1981. 10. 8	IN M
40	Pont de Virens	72	Amélie-sur-Vergre	La Vierge	1985. 12. 17	IN M
41	Pont suspendu de la Caille	73	La Chaux	La Vierge	1985. 12. 17	IN M
42	Pont Vieux	74	Montcaillon	Les Besses	1966. 5. 6	IN S
43	Pont des Arts	74	Alonzier la Caille	Les Besses	1975. 6. 3	IN M
44	Pont d'Arles	75	Cuselles	L'Arve	1975. 3. 17	IN A
45	Pont Mirabeau	75	Paris-1er	La Seine	1975. 6. 12	IN M
46	Grand pont	75	Paris-7e	La Seine	1975. 4. 29	CL A
47	Pont suspendu	77	Paris-15e	La Seine	1926. 3. 19	IN M
48	Pont du Moyen-Age	82	Nemours	La Garonne	1992. 6. 2	IN S
49	Pont des Belles-Fantaisies	83	Bourret	L'Arve	1913. 6. 22	IN M
50	Pont de Jougues	91	Le Cannet des Mures	L'Arve	1914. 5. 8	CL M
51	Pont Militaire	91	Jougues-sur-Orge	L'Orge	1990. 10. 12	IN

表 5 CLおよびINに指定された20世紀の橋梁

No	橋名	県	コミュニティ	河川名	指定年月日	備考
1	Viaduc du Viar	12	Tortiac-de-Macelle	Le Viar	1984. 12. 28	IN A
2	Viaduc de Barajols	81	Tonv	Le Viar	1984. 12. 28	IN
3	Pont trapezoidal de Martou	15	Rion-ès-Montagnies	La Charente	1976. 4. 30	CL S
4	Pont suspendu et anciens pavillons à peage	17	Saint-Amand	La Charente	1988. 11. 11	CL S
5	Pont	26	Richemont	Le Rhône	1935. 12. 23	IN S
6	Pont	27	Bonzere	La Seine	1975. 7. 15	IN B
7	Viaduc	39	Saint-Pierre	La Seine	1984. 12. 28	IN
8	Viaduc de la Reconnaissance	43	de Vindray	La Seine	1929. 8. 21	IN
9	Viaduc des Fades	66	Marc	La Seine	1984. 12. 28	IN A
10	Viaduc	66	Le-Monastier-sur-Gazelle	La Seine	1984. 12. 28	IN A
11	Passerelle Bobilly	75	Saint-Basque	La Seine	1966. 4. 18	IN A
12	Pont Alexandre III	75	Paris-7e	La Seine	1975. 4. 29	CL A
13	Viaduc d'Arcueil	75	Paris-12e	La Seine	1936. 6. 12	IN A
14	Pont de Bir Hakeim	75	Paris-15e	La Seine	1966. 7. 10	IN A
15	Pont	77	Bobly	La Seine	1965. 5. 6	IN B
16	Pont suspendu	82	Portet	La Garonne	1992. 6. 2	IN S

吊橋で、中央径間は90mである。床版は木製で右岸側には2つの石の小さな建物がある。一方は料金所で他方は管理事務所になっている。上流には有名なコニャック(Cognac)市があり本橋のすぐ下流に港があるため桁下空間は24mである。1885年にはアルノダン(Arnodin)によりケーブルの取り替え、床版の補強等の補修が行われている。更に1934年に再補修がなされている。

1986年11月24日、MHの調査官より①いくつかの技術的特長、古さ、その歴史的現状の似通った橋との比較がなされ、それよりは素晴らしい橋であること、②地域の人々に愛されていること、③歴史上或いは技術史

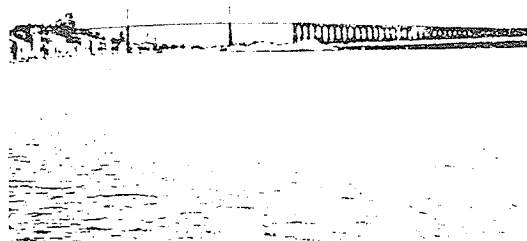


写真-1 トネイ＝シャラント橋 (撮影：著者、1994)

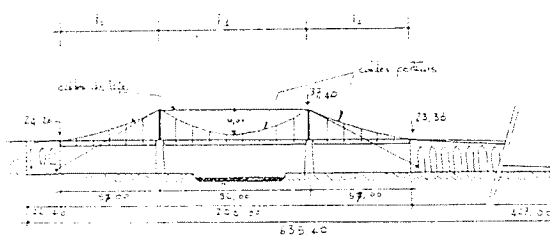


図-3 トネイ＝シャラント橋のスケッチ
(文献11より引用)

Un vote en trois phases est alors proposé par M. LACHAT

1) Inscription sur l'Inventaire Supplémentaire des Monuments Historiques en totalité du pont :

2- pour
14 contre
1 abstention

2) Classement en totalité du pont :

11 pour
14 contre
0 abstention

3) Classement des seules parties en maçonnerie, inscription de la partie suspendue (platière, poutres métalliques, poutres, câbles) :

13 pour
6 contre
5 abstentions

(N.B. une personne ayant levé la séance le nombre de votant est porté à 24).

C'est donc cette troisième solution qui est retenue.

図-4 COREPHAEにおける投票結果 (文献11より引用)

上優れた構造物であることにより保護するに値すること、更にその際INが適当である旨の文章が出された。これを受けて1987年3月13日COREPHAEのメンバーにより現地調査が行われ協議がなされたが、結局まとまらず、図-4のような3段階についての投票が行われた。

すなわち、第一案：橋の全てをINとする（賛成24、反対0、棄権1）、第二案：橋の全てをCLとする（賛成11、反対14、棄権0）、第三案：アンカレッジと高架橋の石造の部分CL、床板、鉄の塔、橋脚、ケーブルを含む吊橋をINとする（賛成13、反対6、棄権5）という結果であった。第三段階で投票総数が24なのは一名が退場したためである（理由は明記されていない）。以上より第三案が可決された。吊橋がINと判定されたのは2度の補修のためオリジナルでないという理由によると思われる。

ところが1987年10月26日に開かれた上級委員会（恐らく石造りの部分のCLについての審査のため）では国立科学研究センターのセンター長であるルモワン（19世紀の鉄製構造物に関する権威で「鉄の建築」¹²⁾という著書もある）より橋梁全体の説明（但し、COREPHAEの時と大差なし）がなされ、最後にルモワンを含む2名が「補修にも関わらず当時の偉大な構造物の一つである」「技術史的にも記録されるべきものである」との意見が付されていた。また、橋の周辺の景観の素晴らしさもコメントされている。そして最後の3行は次

のようになっている。「MHの上級委員会は橋全体をCLとすることを決議する。それはこの構造物が歴史的、技術的に興味あるという理由による。」とあり、21名の出席者の名前と職業（7名は欠席）が付記されている。MH関係の専門家以外には博物館、美術館の研究者、科学史の研究者等がリストされているが、パリ在住の者だけでなく、トネイ＝シャラントのある地方の研究者も2、3人いることがわかる。

この例からも地方と国のレベルでの判断が一致するとは限らないし、必ずしも地方の判定が甘い点数をつけるものではない。ただし、本橋の場合には下流にあるマルトルー(表-5.3)の運搬橋(フランスで唯一現存するアルノダン式の可動橋)が1976年にCLに指定されていることがCLとなる決め手であったと考える。橋梁のスケール、歴史性を考えても本橋の方が上位に位置する。なお、本橋は旧国道上にあった関係から国の所有で2つの石造りの小屋(INに登録された)は県の所有となっている。

(3) パリの橋の場合¹³⁾

パリのセーヌ川には35の橋(環状道路橋を含む)がある。このうちCLはポン・マリー(表-2.110)、ポン・ヌフ(表-2.108)、ロワイヤル橋(表-2.109)、アレクサンドル三世橋(表-2.111)、ミラボー橋(表-2.112)の5橋で、INはコンコルド橋、ドゥビリー橋(表-5.11)、イエナ橋(表-4.44)、ポン・デ・ザール(表-4.43)の4橋である。

図-5は、1974年3月14日付で所有者であるパリ市からの申し出により文化庁のMHに関する部局から建設省宛てに提出された公文書である。この中でパリ市内の4橋、すなわち、コンコルド橋、イエナ橋、ミラボー橋、アレクサンドル三世橋のCLへの指定についての問い合わせがあった。同年10月7日に建設省道路局より検討中との返事があった後、1975年2月27日に図-6のような正式な回答が寄せられた。これによると、CLに指定される橋は「完成時の諸特長の本質が保持される時に限って、CLとして認められる。」とし、「5連の石造アーチであるコンコルド橋もイエナ橋も真正な特長を持っていない。なぜなら、ペロネ(Perronet)によって1786年に造られたコンコルド橋は1930年の拡幅によって大きくフォルムを変えてしまったし、1806年に造られたイエナ橋も1937年に同様に拡幅されている。」

ST. J. D'INTERPRETATION

14 MAR 1974

Le Ministre des Affaires Culturelles
et de l'Environnement

A Monsieur le Ministre de l'Aménagement du
Territoire, de l'Équipement et des Transports,
Direction des Ports Maritimes et des Voies
Navigables,

244, Boulevard Saint-Germain - 75775 PARIS CEDEX 15.

Objet : PARIS (1er, 6e, 7e, 8e, 15e et 16e) -
ponts de la Concorde, d'Iéna, Mirabeau et Alexandre III -
classement parmi les Monuments Historiques.

J'ai l'honneur de vous faire connaître que, conformément
à l'avis formulé par la Commission Supérieure des Monuments Historiques,
j'envisage de procéder au classement parmi les Monuments
Historiques des ponts de PARIS suivants :

- Pont de la Concorde
- Pont d'Iéna
- Pont Mirabeau
- Pont Alexandre III

M. le Préfet de PARIS n'ayant informé que ces ponts n'appartiennent pas à la ville de Paris qui n'en a que la jouissance,
mais à l'État, je vous serais obligé de bien vouloir me faire connaître
si la mesure de classement envisagée est susceptible de recevoir
votre agrément.

J'attacherais du prix à recevoir votre réponse sur ce point,
aussi rapidement qu'il vous sera possible.

En la Ministre et par autorisation

Le Sous-Directeur
des Monuments Historiques
et des Palais Nationaux

DUSSAULÉ

図-5 文化省より建設省へのMH橋梁の評価に関する依頼文書(文献13より引用)

としている。また、イエナ橋は桁下空間が3.69mしかなく、船舶の航行量から見ても将来的に再建命令の出る可能性があることが指摘されている。これに対して二つの鋼橋、ミラボー橋(1893年)とアレクサンドル三世橋(1900年)は、①構造上重要な変更が行われていない、②桁下空間の確保も十分である、③国による今後のメンテナンスの継続が期待されるとし、鋼橋2橋はCL、石造橋2橋はINとすべきであるとしている。

これを受けて、文化省ではアレ(Arrêt)による法令に

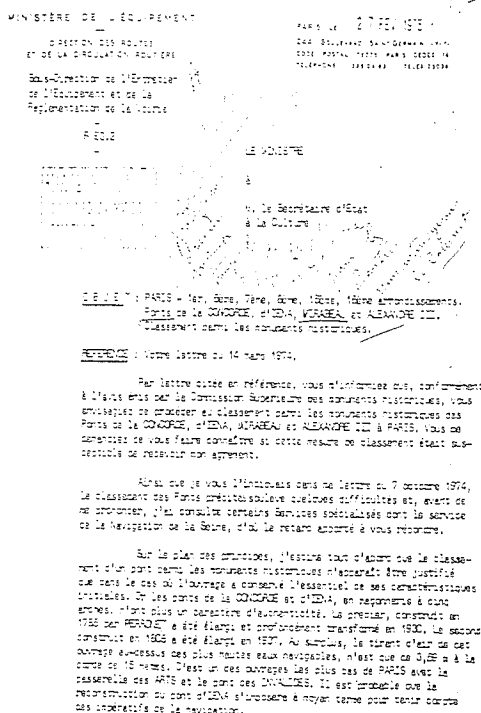


図-6 図-5に対する回答文書(文献13より引用)

より回答通りの決定がなされた。ちなみに、所有者(ここではパリ市)がアレによる法令を拒否した場合、文化省による再審査が行われる。これを通過すると、デクレ(décret)による法令へと移る。この場合、所有者の意向は全く無視される。つまり、最終的には国が、一方的にMHに指定する権限を持っている。

1975年4月29日のアレによる法令で正式にミラボー橋はCLに指定されたが、正式な法令に添付された資料(大きさはA4で2頁)には、支間割り(32m42cm+93m20cm+32m40cm)、設計者レザル(Résal)、橋の特長から最終塗装年(1973年)に至るまでの概要が厳密に記されている。

6. 橋梁の現状

著者の一人は、リストの橋のうち約60橋の現地調査を行った。これらの橋梁の保存の状態を大別すると、①一般の橋梁として供用、②通行制限(例えば歩行者専用)をして供用(サイクリング道のようなスポーツへの利用も広い意味での生活と考え、あくまで生活道

路の一部となっているもの)、③使用しないが立入は可(多くのローマ時代の石橋の様な例で、観光等の目的でその橋を訪ねた時のみ渡るのであり、生活用の橋とは区別する)、④使用せず立入禁止の4つである。この場合、あくまで現地保存が原則である。ただし、⑤一部を移設する例(ポン・デ・ザール)もあるが極めて特殊である。石造橋については別途に取りまとめることとし、ここでは①～⑤に分類される近代橋梁の例を順を追って紹介する。

(1) エスブリー橋(写真-2)

1946年、第二次世界大戦中に破壊されたマルヌ川のユシー、シャンギ、エスブリー、トリバルドゥ、アネットの5つの橋の再建のための公開コンペが開かれた。戦勝国とはいえ、終戦直後の状況はどの国も大差はない。①建設コストを最小に押さえること、②早期に工事を完成させることは当然の条件であるが、その他に、この5橋の建設には、③可能な限り旧橋の橋台を用いること、④河川交通に必要となる桁下空間を確保することの条件が付された。結果は、カンペノン=ベルナル社が落札し、フレシネ(Freyssinet)の次の案が採用された。①5橋ともPCラーメン橋(全長74m)とし、スケールは同一とする。②現場における支保工等の材料費を最少化するため、桁は6列の1桁をそれぞれ32個の工場製作によるプレファブブロック(長さ2.045m)で造る。③プレストレスを橋軸方向、橋軸直角方向、鉛直方向の3方向に導入する。

本橋は、上記のような経済面、構造面、工期等の制

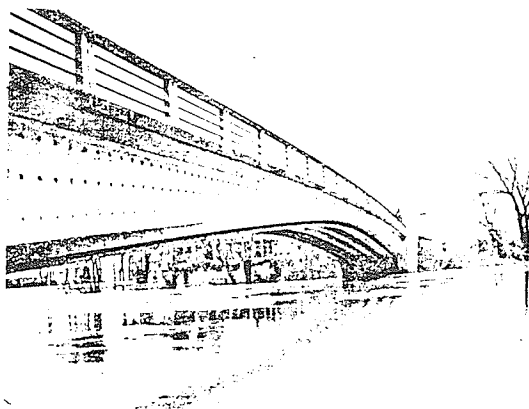


写真-2 エスブリー橋(撮影:著者、1994)

約条件の多い中での設計であり、橋台近くの三角形になった支点部の工夫など以後のPC橋の基本となる構造とは言い難い。しかし、実質的にPC橋が初めて使われた橋であり、PC構造のその後の発展を考え合わせると、現役でありかつすでに歴史的構造物であるという点でINへの登録は当然であろう。MHの制度は単に保存に関連してのトラブルが起きたときの対処が目的ではなく、むしろ本例のように将来に渡って出来るだけ長く「使うことを前提とした保存」への市民或いは行政への意識の高揚をはかるという一つの大きな目的がある。

さらに、第二次世界大戦後に建設された橋梁がMHになっているという事実は現在の橋梁技術者を大いに鼓舞させるものである。なぜなら、彼らは本橋と同じく「自らが将来に造るであろう傑作」をもフランス橋梁史の中に位置づけ得るからである。

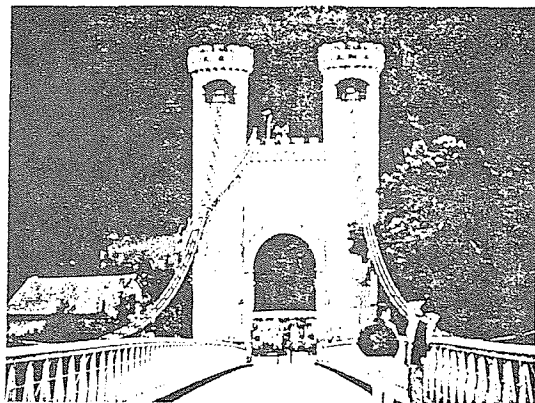
(2) トネイ＝シャラントの吊橋

5. (2)でも述べたように本橋からシャラント河への眺望は観光ガイドにも記載されているもので一見に値する。このため散歩やサイクリングのコースとしては最適である。また右岸側の斜面には小さな公園もあるため子供が橋を渡ることも少なくない。散歩やサイクリングにしか使わない橋を生活橋と呼んで良いか否かは意見の分かれるところであるが、少なくともフランス人の何割かの人にとって川岸に座って川や橋を眺め、辺りを散歩することは生活の一部であるといえる。地方の都市にあっては本来橋と人はそのようにして関わってきたのだと思われる。その意味ではフランスの吊橋の保存はこのような生活用とレジャー用の中間的位置付けて今後行われていくのではないと思われる。

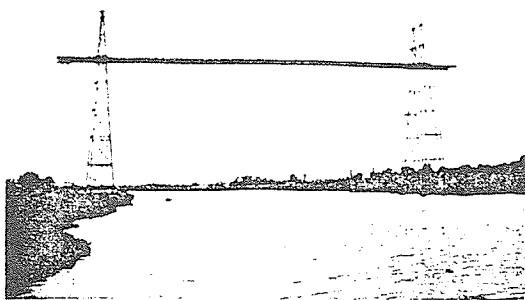
(3) カーユの吊橋（写真－3）

本橋は1839年ユセ渓谷に架けられたスパン182m、水面から桁までの高さ148mの単径間吊橋である。塔は中世の城をイメージさせるもので当時の吊橋の塔はゴシックや古典主義的なデザインが多い中で珍しいものである。本橋はサヴォア地方の中心アヌシーの北10数キロの所にある橋で渓谷を渡る橋として当時から有名であった。この地方は元々独立国であったこともあり、フランスよりもスイス的色彩の強い所である。

なお、アヌシー・ジュネーブ間の交通量の増加によ



写真－3 カーユ橋（撮影：著者、1994）



写真－4 マルトルーの運搬橋（撮影：著者、1994）

る国道の付け替えに伴い1928年カコによって137.5mのコンクリートアーチ橋が本橋に並行して建設されたが、これは橋軸方向には無筋のアーチ橋で当時世界最長であった。

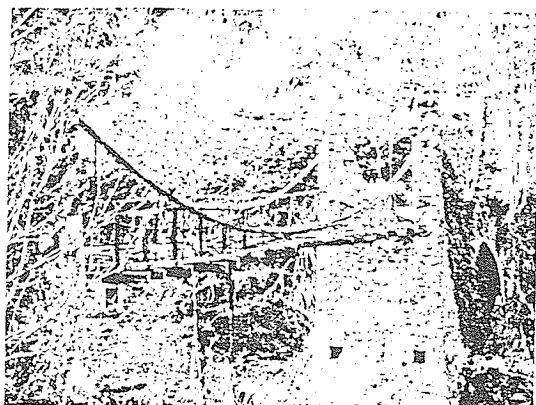
また、この一帯は歴史的地区のIN(Site historique)にも指定されている。本橋は県道のため県の所有となり、INに指定された現在、観光用に歩行者のみの通行を認めている。写真－3は本橋の現況である。また、マルトルーの運搬橋も観光用としての再使用に向けて保守点検が行われている。（写真－4）

コンミュン所有の吊橋が凍結保存される場合が多いのに比べ、本橋は維持管理の予算的裏付けがしっかりとしているようである。

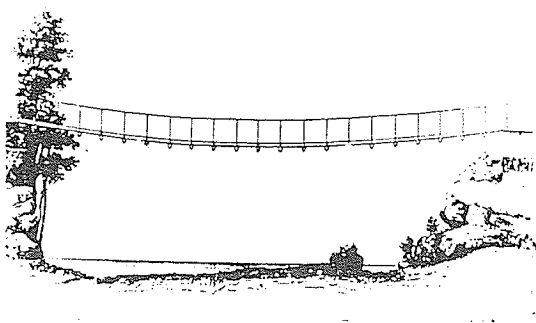
(4) カンス川の吊橋（写真－5，6）

1825年に完成した世界初のワイヤーケーブルによる本格吊橋トゥルノン＝タン橋の実験橋として、スガンがローヌ川の支流カンス川のアノネイ郊外の一族の工場の敷地内に1822年に建設したのが本橋である。本橋は図－7の様なスパン18mの歩道橋である。ただし、これは初めの橋の図である。

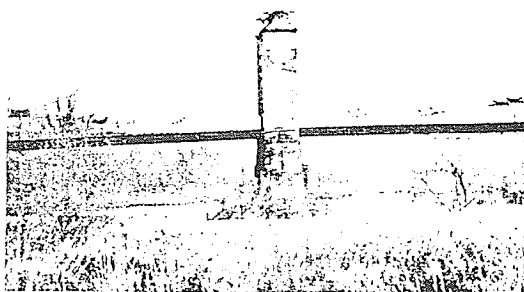
トネイ＝シャラント橋とマルトルー橋以外の吊橋はすべて通行禁止である（写真－7はブール、写真－8はパレンティニャの現況である）。これは、いわゆる凍結保存であるが、本橋については、実体は写真－5，6



写真－6 カンス川の吊橋の現況
（撮影：著者、1994）



図－7 カンス川の吊橋（文献14より引用）



写真－7 ブール橋の現況（撮影：著者、1994）



写真－5 カンス川の吊橋の現況
（撮影：著者、1994）

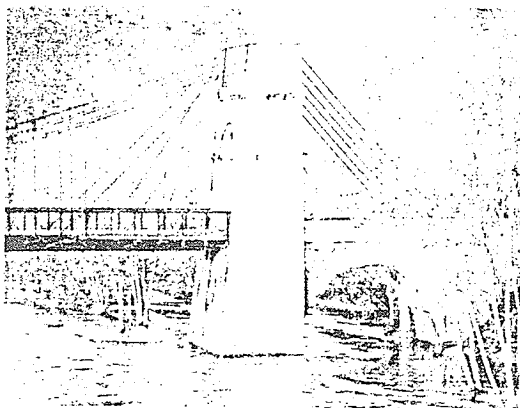


写真-8 パレンティニャ橋の現況（撮影：著者、1994）

の示すように放棄されているとあって良い。地方で吊橋の架けられた所は、元々辺鄙なところが多く、橋の所有者であるコンミュンの予算では実生活に不用となった橋を至急に補修するだけの経済的余裕が無いのが現状である。このため、本橋の様に朽ち果てるに任せて放置することとなっている。

ただし、我々の感覚と異なるのはフランスではこれを放棄と考えていないことである。物を作る（或いは再建する）のに数十年かかるのは当然であり、経済的な面も含めて良い解決策が今見つからないときはそのまま機が熟すのを待とうと考えるのである。これは、大陸的発想であり、子供達の方がよい答えを出せるだろうという、進歩的史観によるものであると考えるべきであろう。

もちろん、本橋の様な人里離れた所に放棄された橋においては凍結保存そのものが問題の解決にはつながらないことは明白である。仮に国のレベルで一時的に補修が行われても、構造物を産み出し、守ってきた市民のポテンシャルがその場所から無くなってしまうと、構造物そのものが再びそこから劣化していくだけである。土木構造物であれば、一時的な町興しの観光ブームとは異なる何らかの形で生活と結びついた活用策が必要となってくる。

例えば、現在建設省では県単位の歴史的土木構造物のリスト作りが進められている。このリストの主目的の一つは、観光よりも日常的な歴史的土木構造物の利用を市民にアピールすることにある。ドライブ、ハイキングといったアウトドアスポーツにおいて、ある橋を出発点にするとか、INの橋の近くは食事（ピクニック）をするのに便利であるとか、駐車場があるのでそこからハイキングに向かえる等といった地理や近辺の宿泊等の情報と橋梁を中心とした土木構造物及び人物史に関する情報の提供が実現されつつある。このリスト作りは英国等で盛んなアメニティ都市づくり¹⁵⁾やナショナルトラスト運動、シビック・デザイン運動¹⁶⁾と軌を一にしたもので、より多くの地方の土木構造物の保存と活用、有効な余暇開発とが不可分に結びついたものであろう。我が国においてもこのような形の土木構造物の活用が図られる必要があると考える。

何れにしても、19世紀初めの吊橋の場合橋台や塔以外は全ての部材がいわば消耗品であり、これらの橋の保存はフランスでも極めて困難であると思われる。

(5) ポン・デ・ザール

本橋は1804年フランス初の鉄の橋（鑄鉄製歩道橋）として完成した。はじめは1スパン18.6mの9連アーチ橋で、各アーチは5列のアーチリブよりなる構造であった。右岸のルーブル宮と左岸のフランス学士院を結ぶ橋で、橋名は当時のルーブル宮が芸術宮（パレ・デ・ザール）と呼ばれていたことに由来する。左岸の最初のアーチはモネー水門とコンティ岸の拡張工事に伴い1852年に取り除かれたため図-8のように左岸側のみ24mのスパンとなっていた¹⁷⁾。

1961年と70年の船の衝突による構造上の問題と航路幅の拡大のため本橋は廃橋となることが決定した。組は本来、永久保存が目的であるが、場合によっては撤去されることもある。スガンのトゥルノン=タンの吊橋もCLであるにも関わらず廃橋となっている。本橋の

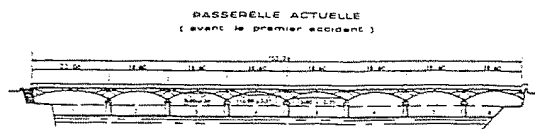


図-8 旧ポン・デ・ザール（文献18より引用）

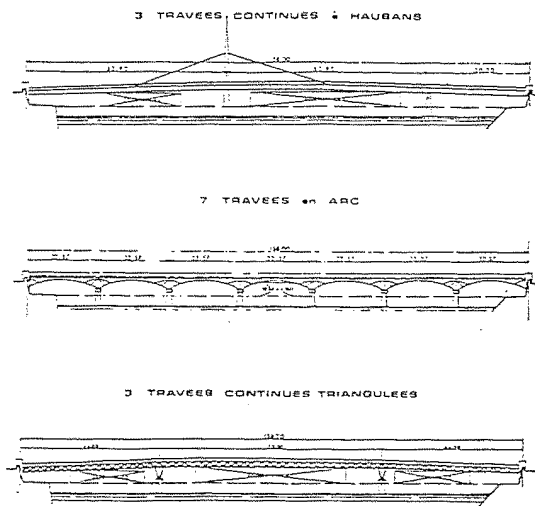


図-9 新橋案のスケッチ（文献18より引用）

廃橋の決定と並行して新橋の計画が進められた。図-9は1976年に描かれた37案のスケッチ¹⁸⁾の一部である。図では3径間～7径間までのPC、RC、鋼の橋について斜張橋、桁橋、アーチ橋の案が示されている。

さて、ここで問題となったのは「何を残すか」ということである。或いは、「守るべきものは何か」ということである。結論から言えば、守らなければならないのはMIIを含めた周囲の景観である。元来、ヨーロッパにおける構造物の保存は、その外部は完全に保存し内部は自由に造り変えて良い場合が多い。「機能は所有者のもの、美はみんなのもの」ということである。

ただし、問題は解決されたのではなく「守るべき景観」とはどのようなものが次の議論となった。例えば、1979年のル・モンド紙¹⁹⁾には「アールの歩道橋は再建されるべきか」と題する文章がある。「歴史的景観として保存されなければならないのは、ポン・ヌフからロワイヤル橋の間に橋のない17世紀の風景である」というのがその主旨であった。現在はこの2橋の間にポン・デ・ザールとカルーゼル橋がある。また、斜張橋のようなモダンな橋を望む声もあった。これに対して当然のこととして「守るべきはポン・デ・ザールを含めた19世紀の風景だ」という反論が出され、これが主流になっていく。19世紀の風景を守るということは「過去の風景」を保持し続けたいという消極的な考え方のように思われる。しかし、実際はその風景が現在も保たれそれを守るべきだと考える以上、保存は市民レベルでの今日的課題への積極的取り組みとならざるを得ない。パリ市の提案した新橋案には18歳以上の696名の無記名のアンケートが行われ9割のパリ市民が賛成したとされている。

これらの経緯を経て、旧橋は廃橋とするがあくまでINに指定された時点、或いは19世紀における本橋と周辺地域の景観を守ることが条件となった。このため新橋は7連のアーチであるが、旧橋のイメージを極力残すことに最大の努力がなされた。高欄も、現行の歩道橋に要求される設計条項を満足させつつも旧橋の図面に従い、すかし細工がなされた。アーチリブは旧橋が14.60mの半径の円をなしているのに対して新橋は半径20.28mである。これは、航行のため満水時において幅12m、高さ4.3mの空間を確保するためである。橋脚もコア部分は鉄筋コンクリートであるが、厚さ20～30cmの石張りを施し、寸法は旧橋通りである。ただし、船舶

が正面衝突した場合の抵抗力については詳細な検討が行われている。

なお、旧橋の一部はパリ東南のノジェンの港の歩道橋として利用されている。この橋は廃材を利用した新橋であると考えるが、旧橋を渡ったことのある者としては懐かしさの湧く橋である。

7. まとめ

フランスの歴史的記念物に指定された橋梁及び水道橋の全リストと19世紀以降に建設された橋梁のうちIN（地方指定の歴史的記念物）に指定されたリストの作成を行った。これらの橋梁のうちフランス文化省の資料を基にしてトネイ＝シャラントの吊橋とパリの五つの橋梁の歴史的記念物の指定の経過を述べた。さらに、近代橋の保存状況調査より保存の事例を五つに分類し、それぞれの代表的な橋梁の現状を示した。

また、橋梁のIIIへの指定件数の推移図を示したが、指定件数と保存に関する法律の間に相関のあることを述べ、保存に関する思想の成熟化に伴う法的措置と橋梁の保存における法律の整備の重要性について指摘した。フランスの歴史的記念物に関連した法律の変遷を見ると1840年当時の応急避難的な構造物のIIIの指定から構造物に隣接した地域の保存を経て地域としての保存、アメニティ都市や歴史的景観の一部としての保存へとといった「モノ」の保存から「景観」或いは「アメニティ」の保存へと移行していることが窺える。これに関連して国レベルによる技術史のみによる保存の基準の一元化から地方ごとの基準の多元化がすすめられていることを指摘した。

8. 謝辞

ブルジョー女史をはじめフランス文化省の歴史的記念物資料室の皆様には資料閲覧の便宜を図っていただきました。心よりお礼申し上げます。

9. 参考文献

- 1) Monuments Historiques, Procédures de Protection Travaux, Direction du patrimoine (フランス文化省資料)
- 2) Bady, J. P.: Les Monuments historiques en France, Presses universitaires de France, 1985.
- 3) Marrey, B.: Les ponts modernes, Picard, 1991.

- 4) Prade, M. : Les ponts monuments historiques, Brissaud, 1986.
- 5) Billo, M. et al : Le pont de Mirabeau-Histoire du site et des ouvrages d'art, Edisud, 1997.
- 6) Gunten, B. D. et al : Les Institutions de la France, NATHAN, p. 87, 1988.
- 7) Burdy, J. : Autour de Lyon-Les Aqueducs Romains, Patrimoine Rhônealpin, 1989.
- 8) Dep. du Rhone : L'aqueduc romain du Mont d'Or. Imp. BOSC Freres, 1987.
- 9) Mesqui, J. : Le pont de Saône a Mâcon, Revue generale des routes et aerodromes No. 600, pp77-87, 1983.
- 10) Fève, M. : Ponts de France, Presses de l'ENPC, 1982.
- 11) Le pont suspendu de Tonnay-Charente (フランス文化省資料)
- 12) Lemoine, B. : L'architecture du fer, Champ Vallon, 1986.
- 13) Les ponts de Paris (フランス文化省資料)
- 14) Conservatoire nationale des arts et metiers : Marc Seguin 1786-1875, 1987.
- 15) 西村幸夫 : 『歴史を生かしたまちづくり 英国シビック・デザイン運動から』、古今書院、1993年.
- 16) 岡秀隆・藤井純子 : 『ヨーロッパのアメニティ都市 - 両側町と都市葉 - 』、新建築社、1991年.
- 17) Chauviere, J. -Y. et al : Le pont des Arts à Paris Travaux, 1985.
- 18) La passerelle des Arts (フランス文化省資料)
- 19) Beaudouin, F. : Fant-il reconstruire la passerelle des Arts?, Le monde, 1979.